

2018年度CSR活動総括

サステナビリティ推進のための方向付け（方針等作成）

2018年度は、TOYO TIREの持続可能な成長（サステナビリティ）を目指す全社横断的なワーキンググループ（WG）の活動を通じて、今後の当社グループのサステナビリティの

方向性を定める、準備の一年でした。2019年度は策定した目標や方針類のもとで、それぞれの目的達成に向けた活動に着手していきます。

サステナビリティ推進活動の進捗状況

ワーキンググループ (WG)	メンバー（国内*1）	目 的	2018年活動実績	2019年活動予定
SDGs WG	ゴールごとに関係の深い組織からメンバーが参集	国連SDGsに貢献するTOYO TIREのSDGsの策定および達成	TOYO TIREのSDGsの策定	SDGs達成に向けたターゲット、活動計画の作成、SDGsの浸透
環境WG	（品質環境安全統括部門） ●環境安全推進本部 （技術統括部門） ●中央研究所 ●技術第一本部 （生産統括部門） ●国内生産本部 ●エンジニアリング本部	新たなビジネスリスク・機会である気候変動への対応	気候変動戦略の策定に向けた活動（影響評価、シナリオ分析）、情報開示内容（CDP質問書への回答）の充実	CDP回答への評価結果の分析、情報開示内容の充実、気候変動戦略の策定
人権・労働WG	（コーポレート統括部門） ●経営基盤本部 ●コンプライアンス・リーガル本部 （品質環境安全統括部門） ●環境安全推進本部	新たなビジネスリスク・機会である人権、腐敗行為への対応	人権・労働方針、腐敗防止方針の策定	新方針の浸透、デューデリジェンス*2実施に向けた準備 *2 組織が及ぼすマイナスの影響を回避・緩和することを目的として、事前に認識・防止・対処するために取引先などを精査するプロセス。
サプライチェーンWG	（事業統括部門） ●購買本部 （技術統括部門） ●技術第一本部	持続可能な調達責任への対応	CSR調達ガイドラインの改定（天然ゴムを含む原材料の持続可能な調達のための方針検討）	改定ガイドライン（新方針）の浸透、持続可能な天然ゴムのためのグローバルプラットフォームの活動

*1 全WGに海外の各関係会社担当者も参加しています。

外部有識者コメント

外部有識者コメント

貴社は2017年に、サステナビリティに必要な4つの優先課題、「気候変動への対応」「人権・労働、腐敗防止への対応」「持続可能な調達責任」「SDGs(2030年のあるべき姿)の策定および達成」を特定、2018年から組織横断型のワーキンググループを課題ごとに設置し活動しています。

その取り組みとして、2019年1月にCSR調達ガイドラインを改定し、天然ゴムの持続可能な調達のための方針を策定しました。3月には、7つの重点テーマとSDGsの14のゴールの関連を整理し「TOYO TIREのSDGs」を策定しました。また同月、普遍的な規範である国連グローバル・コンパクトに署名したことも併せて公表されました。これは、グローバルな原則やガイドラインを踏まえて課題を捉え、優先

課題を特定、方針を定めて実行、その取り組みを開示するという、ESG課題対応へのプロセスが機能していることが伺え評価できます。

今後は、テーマごとのKPIを設定し、達成度合いを客観的に評価し開示すること。「気候変動への対応」は、TCFDのガイドラインに則り複数のシナリオを想定し、そのシナリオに沿った実行計画を作ること。「SDGsの策定および達成」は、テーマごとのSDGsのゴール設定に加え、貴社の中長期の企業価値向上にどう結びつくのかを示すことが必要になります。

貴社は、2019年をサステナビリティ経営のスタートと位置づけ、2030年のあるべき姿を本レポートで掲げました。様々なステークホルダーとのエンゲージメントを通じて着実に実行されることを期待します。



株式会社QUICK 常務執行役員
ESG研究所

広瀬 悦哉 主幹

外部有識者コメントを受けて

昨年に引き続き広瀬様から当社の「CSR報告書2019」について貴重なご意見とアドバイスを頂き、大変ありがとうございます。今後も当社グループが掲げた7つの重点テーマに対して、スピード感を持ちつつ、着実に取り組んで参ります。

2018年度にサステナビリティを推進するための全社横断型ワーキンググループを複数立ち上げ、当社経営基盤本部総務部がグループ全体の活動をサポートする体制を構築し、各テーマに真摯に取り組んでおります。また、本年正式に発足したGPSNR(天然ゴムの持続可能な供給・販売・活用体制を目指すグローバルなプラットフォーム)にも参画しました。タイヤメーカーだけでなく、消費者・自動車メーカー・天然ゴム生産者など多種多様なゴム産業のステークホルダーと歩調を合わせながら、グローバルな社会課題への解決に向けた取り組みを始めております。

しかしながら、当社グループのサステナビリティに向けた活動は緒についたばかりです。広瀬様からご指摘頂いたように活動のKPIの設定、実行計画作り、ゴール設定、当社の中長期の企業価値との関連づけなど、当社グループの取り組みを中身が伴ったものとしていくため、引き続き活動を深化して参ります。また、当社グループ全員が一丸となり、SDGsの達成、およびその先のサステナビリティを目指す意識づけを図るべく、社内への情報発信や教育などの社内コミュニケーションも充実して参ります。



TOYO TIRE株式会社
取締役 執行役員
コーポレート統括部門管掌

笹森 建彦

編集後記

「CSR Report 2019」を最後までお読みいただきありがとうございました。今回はグローバルにモビリティ社会への貢献を目指す当社グループのSDGsについて詳細を説明するとともに、機会創出のための技術革新やリスク回避のためのグローバル方針整備など、サステナビリティに向けた各組織の活動をご紹介いたしました。次回以降は、SDGsの達成に向け、各組織が目標を掲げて取り組む活動の進捗状況をご報告してまいります。ステークホルダーの皆さまにTOYO TIREの企業活動をご理解いただくための一助として、本書をご高覧いただけますと幸甚です。